

資料1 宇佐美地区の津波対策（課題と対応策）（第1回～第3回地区協議会のまとめ）

【1・2・3・4グループ】

第4回地区協議会資料
(平成29年3月8日)

分類	H27. 5. 15地区協議会（第1回）	H27. 11. 27地区協議会（第2回）	H28. 6. 22地区協議会（第3回）	考えられる対応策
堤防整備 (津波)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9mの堤防は景観上、賛成は出来ない（宇佐美地区にはいない）他の方法を考えてほしい ・ 高い堤防を作ったら、波の様子が見えないので不安もある ・ 川が近くて、津波が入り込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現況で良い ・ 他に避難の方法 ・ 観光、産業に配慮した高さが望ましい ・ 現況より1.0m ・ レベル1対応の9mくらいが良い ・ 防波堤を作るなら道路も上げて欲しい ・ 防波堤を作るなら土地の地盤を嵩上げて欲しい ・ 河川には水門を設置して欲しい ・ 景観をそこねるため防波堤はいらない ・ 代替として観光客に対して避難路の整備、誘導看板の設置、道路整備 ・ 新しい避難、場所の整備、水・トイレを確保 ・ 必要ない 現況のままで良い ・ どちらかといえば必要ない（観光） ・ 必要であるが景観や観光に配慮が必要 ・ 必要だがもっと低く（景観） ・ 現状のままで良い 理由→景観、税金 ・ 水門は欲しい ・ 津波の川の遡上は心配 水門だけでも作って欲しい ・ 道路ごと高くする ・ 防波堤かなりの金額がかかると思うが本気で建てるつもりあるのか？ ・ 防波堤を建てないという意見が出た場合、その次の対策案はあるのか？ ・ 通常時には倒れているが、津波の時だけ門が建つようなものなら景観を損なわない ・ 沖側に堤防を設置してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防潮堤のかさ上げはしないで、避難路整備やソフト対策の充実などで対応する <p>中期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇佐美3河川について、施設効果の高い順に河口部水門を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レベル1津波による浸水被害を防ぐための護岸整備（かさ上げ）は当面実施しないこととします。 ・ 宇佐美3河川（二級河川烏川・伊東仲川・伊東宮川）の河口部については、現況の海岸護岸高に相当する津波に対応する水門を設置する。 <ul style="list-style-type: none"> → 河口部水門設置（烏川）(H-1) → 河口部水門設置（伊東仲川）(H-1) → 河口部水門設置（伊東宮川）(H-1)
避難路 (土砂)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川と山があり、避難区域（経路）が狭い ・ 土砂災害等が心配です どのように町内の皆に伝えるか？ ・ 山崩れ 		<p>短期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊東市総合防災ガイドブック（ハザードマップ） ・ 津波避難行動計画の策定 ・ ガケ崩れ対策 ・ 避難場所 山崩れが心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・ 土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備 ・ ハザードマップで土砂災害（特別）警戒区域を確認し、より安全な避難路を選定してください。
避難路 (道路)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難する際、仲川にかかる橋（大丸橋）の倒壊（橋を渡り、高い畑の所へ避難する予定） ・ 落下物により避難が出来るか ・ 道路の安全は確保されているか ・ 道路の地割れ ・ ガードの崩れ ・ 土砂崩れで道路閉鎖 ・ 法面の崩壊が心配 ・ 避難経路の道の確保 道にガラスなどが散乱するので（逃げる時はあわてるので、靴などをはかないで出てしまうこともあるかも） ・ 自宅のブロック塀が、H=1800位あります 少し割れもあり、道路側へ倒れると車の通行が出来なくなると思います ・ 避難路がせまい上に畑の石積が老朽して、大きな地震の場合、避難に支障が生じるので安全な避難先まで行けるか心配される避難路の整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町を山側に移設していく必要もある ・ 避難路が液状化して避難できるのか ・ 留田は津波で道路が使用できないため、国道へ抜けられる道路を作ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間がかかる ・ 初津は避難路が限定される ・ 初津からの避難路 ・ 留田から国道まで抜けられる避難路を ・ 古い石垣が危険 ・ 車は走れない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大地震が発生した後しばらくは余震が続くことが予想されますので、余震によるブロック塀等の倒壊にも注意が必要です。 ・ 既に国道に抜けられるようになっています。 ・ 民地の石積みは市では整備できません（所有者に依頼）。(S-1-2) ・ 乗り捨てた車両により、消防車等の緊急車両が通れなくなります。原則、徒歩で避難してください。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所がわかるようにする 	<p>中期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 橋が心配 ・ 橋を渡らなくてはならない ・ 橋が古い 通れるよう改善してほしい 	<p>短期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誘導看板の設置
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波避難計画に基づき、より効率的な避難ができるよう、平成27年度に実施した、津波避難方向の路面表示等を、今後も充実させていきます → 津波避難方向の路面表示等の充実 (S-2) 	

分類	H27. 5. 15地区協議会（第1回）	H27. 11. 27地区協議会（第2回）	H28. 6. 22地区協議会（第3回）	考えられる対応策
避難路 (道路)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難階段の横がガケ その先が行き止まり ・高台へ行く道がない ・まず家の外に出ることが出来るのか 又は家の外へ出なければいけない ・避難経路の道幅がせまい所に集中するのではない ・家の裏に急な坂や崖がある うまく上にのぼれるかが心配 ・階段ある ・地震で例えばケガした時、皆が余裕がない中、自力でどうするか？（助けを求めていいか？） 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間に逃げられるか 誘導できるか 		中期 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間照明 ・ソーラー外灯 	<ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯・ヘッドライトの備蓄 → <u>街灯の新設及びLED化に対する補助(S-3)</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・線路をわたる 		<ul style="list-style-type: none"> ・駅を通過できない 通れるように ・駅を渡ることが出来るように スロープ ・線路を渡る陸橋がほしい ・線路上に道路 ・線路へ上がる階段 ・山に逃げるのに線路があるため線路を通るしかない（フェンス） ・JRの柵に開き口を設けてほしい（線路を横断したい） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JRから、津波避難の際の線路横断を容認することは難しいとの見解が示されております。
<ul style="list-style-type: none"> ・電柱・信号が倒れるか ・電線が切れる 電柱が倒れる 			<ul style="list-style-type: none"> ・広い道路の無電線化 	<ul style="list-style-type: none"> ・県管理の緊急輸送路（国道135号、県道伊東大仁線）への電柱の新設は禁止されます。（平成29年3月から）
避難ビル・避難タワー	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の高さは、どの位になるのか 津波避難ビルで大丈夫か？ 		短期 <ul style="list-style-type: none"> ・避難用外階段を設置 ・会館へ逃げる ・避難のための建物が欲しい ・避難ビルに誰が逃げるか決めておく ・避難ビルへの訓練を行う ・避難ビルを増やす（持ち主にお願いする） 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波浸水区域外への避難が原則ですが、間に合わないと判断したときは、津波避難ビルや倒壊を免れた高い建物に避難をしてください。 ・津波避難困難地域が解消されるよう、津波避難協力ビルの指定数増加を図っていきます。 → <u>津波避難協力ビルの指定数増加 (S-4-1)</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・年寄りがいるので避難に時間がかかるので、津波タワーを作ってほしい ・津波対策 いつ来るか解らない現状で堤防は必要無い避難タワーが最適ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路に歩道橋を設置して避難タワーの代替にはどうか ・避難タワーが必要 ・避難タワーを設置して欲しい ・初津の地図がきれてる→逃げる場所がないから危険なのに・・・津波避難タワーで山へ ・平地からの避難地 命山を作る ・避難タワーを設置して欲しい 	長期 <ul style="list-style-type: none"> ・避難タワー（歩道橋兼用） ・命山 ・避難広場 ・避難タワーがほしい 歩道橋 ・幼稚園に避難タワー ・避難タワーを高台に建設 ・高い所への避難場所を作ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難計画策定により、津波避難困難地域が判明したため、津波避難施設の種別、規模、建設箇所、必要性等について、今後検討してまいります。 → <u>種別、規模、建設箇所、必要性等について検討 (S-5)</u>
避難場所 (避難所運営)	<ul style="list-style-type: none"> ・一次避難場所に何名集合するか不安 設置に必要な人員が集まるか ・町内が孤立した場合の方法 ・近くの公園へ逃げる 火の元・ガスを止める ・現在の避難する場所（中学）が浸水地域である ・もっとも安全な高い場所がわからない ・少し離れたところに住んでいる高齢の両親を（特に母親は足が悪く、杖を使っている）避難させるにはどこが良いか？ ・交通（道路の確保） 山間部に住居 100世帯程常住 ・防災倉庫は大丈夫か ・避難場所 小学校でいいのか？ ・避難場所（宇佐美中）が川のそば 	<ul style="list-style-type: none"> ・初津地区は国道、民家、線路が隣接しており避難先がないため、心配である ・閉鎖している宿泊を活用してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・山と斜面に囲まれていて山に逃げるしかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いしています。 ・平成27年度中に配布した、津波ハザードマップで避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。 ・津波により国道が通行できなくなり孤立することが想定されるため、各家庭での備蓄に努め、数日間は地域で助け合う（共助）ことが必要です。 ・L2の津波高では宇佐美小は浸水が想定されていますので、できる限り高い所に避難する意識が必要です。 ・L2の津波高では宇佐美小は浸水が想定されていますので、できる限り高い所に避難する

分類	H27. 5. 15地区協議会（第1回）	H27. 11. 27地区協議会（第2回）	H28. 6. 22地区協議会（第3回）	考えられる対応策
避難場所 （避難所運営）	<ul style="list-style-type: none"> 山崩れ 避難場所（公民館）の裏側が急傾斜地になっている 河川（海）のそばの為、避難場所まで5分くらいかかるので心配である 避難場所の適当な所がわからない 避難場所がない・遠い 避難広場を作ってほしい 城宿町は宇佐美小に避難するように訓練しているが、参加者が少ないのが悩み 			意識が必要です。
人的障害 （災害弱者）	<ul style="list-style-type: none"> 小学生はどうなっているか 高齢者（体の不自由な方）の救護 避難の時、どう助けるか一人では無理？ 住まいの廻りを考えると老人ばかりで、5分以内の避難は難しい 要介護者の安全確保 	・子ども、老人が避難する時間がない地区もある	短期 <ul style="list-style-type: none"> 学校ごとの防災計画 避難行動要支援者避難支援計画（個別計画）の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ごとに防災計画が作成されています。家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。 高齢者や障害者については、あらかじめ避難行動要支援者避難支援計画（個別計画）を作成しておく必要があります。
情報連絡 （安否確認） （家族・情報）	<ul style="list-style-type: none"> nearbyの地形 建造物の安定度 避難できる高い所があるか 安全に高台に行けるか 自分の居る高さ的位置を考える 津波はどこまでくるか 震源がどこか？ 離れている家族の安否が心配 どこが震源地か？近隣の親戚は大丈夫か？ 家族の連絡方法をどうしようか 家族の安全 家族と連絡がとれるか？ 家族の人といっしょに逃げることも大切だが、まず自分の身の安全を確保すべきだ 家族の人といっしょに逃げなければいけない 家族の安否を気づかいつつ、できるだけ高い所に避難する（家族に携帯等で連絡とれるか） 海岸の家なので、家族（老人）全員の避難が心配 		短期 <ul style="list-style-type: none"> Jアラート、同報無線、メールマガジン、テレビ（テロップ）、ラジオ 広報スピーカー音声通らない、聞こえない 放送、サイレン、スピーカーが聞こえにくい 短期 <ul style="list-style-type: none"> 災害用伝言ダイヤル171 家族間・近所であらかじめ取り決め 	<ul style="list-style-type: none"> Jアラート、同報無線、メールマガジン、ラジオ等により情報収集をしてください。 発災直後は、自助、共助が必要となります。 家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。 安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を活用してください。 情報を入手するまでには時間がかかるので、強い揺れや長い揺れを感じた場合は、すぐに避難してください。
ライフライン	<ul style="list-style-type: none"> 発電機は使用できるか 下水は使用できるか 		短期 <ul style="list-style-type: none"> 自主防災会に発電機交付 	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会に交付している発電機については、訓練時等に点検を行うようお願いいたします。
家屋関係 （建物等の危険）	<ul style="list-style-type: none"> 家の耐震が心配（30年） 自宅が倒壊しないか心配である 家の倒壊は？ アパートの3階のため、階段がこわれた場合に地上に下りる事ができない 	・避難路に古い家屋がある	短期 <ul style="list-style-type: none"> TOUKAI-0による支援 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和56年5月以前に建てられた木造住宅については、無料で耐震診断を行います。耐震補強費用の補助制度もありますので、市建築住宅課まで御相談下さい（TOUKAI-0による支援）。
	<ul style="list-style-type: none"> 農協の建物は平気か コミセンは大丈夫か 			
	<ul style="list-style-type: none"> 石油ストーブの耐震性は？（火災） 			<ul style="list-style-type: none"> 電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてください。石油ストーブも消火してください。
その他 （防災意識）	<ul style="list-style-type: none"> 避難時に持参するものをまとめてあるか？ 		短期 <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 	